

Photo Space

記録・創造・交流のための

ロゴデザイン：富樫茂美

現代写真研究所

〒160-0004

東京都新宿区四谷 3-12 ヲホビル 5.6F

03-3359-7611 (TEL) 03-3355-1462 (Fax)

<http://www.genken.ac>

jimukyoku@genken.ac

責任編集 金瀬 胖

禁無断掲載 許可なく作品の使用はしないでください。

SUMMER 2022・8.1 NO. 9



習志野市谷津 2022年6月 金瀬 胖 撮

「少年、ポールを登る」 金瀬 胖

畑をつぶして巨大なマンション団地ができてそろそろ8年ほどたつのですが、そのころ生まれた子供と家族が大きな芝生の公園で遊んでいます。もと、ニンジンやネギの畑だった所で、駅に近いので高層にして公園を広めにしたのです。ニンジンのかわりに子供が育つ、まー、いいか。それより畑が減った分、他に農地を作るという話は聞いたことがないが、何故か。

さて、上の写真、他に木があるのになんの手がかりもないポールを登っている少年がいます。手足を上手にポール絡ませて登っていますが、周りの子供も大人もまったく関心を示しません。distanceのためでしょうか、私は5回ほどシャッターを切りました。

「ここで何故写真を撮るの？」と聞かれたら、私はいまや先住民であるから昔の田園風景の話、例えば船橋競馬場で馬糞もらい肥料にしていたとか、道端の肥溜めに子供が落ちたとかを話してあげることになっている。繰り返すうちに、変なおじさんは怪しい人ではなくなったよう。挨拶する子供もいる。先住民としては、distanceが新しい習性となり、他者への関心が薄れ孤立してしまうことを危惧していますが、私たちとは違うコミュニケーション法があるのかもしれない。

◆現研創立50年を前にプレ企画として写真展「TRY- 写真のこころみ」を9月15日から開催します。現研の壁の全てを写真で飾る「写真まつり」とご承知ください。参加要領は事務局まで。

◆現研創立者の伊藤知己さんの名を冠した「第2回伊藤知己写真賞」の作品受付（～9月30日締切）がまもなく始まります。案内パンフをご覧ください。

CONTENTS

- 1・金瀬 胖
- 2・藤田 篤男
- 3・とみた やすよ
- 4・佐藤 泰治
- 5・木崎 昭
- 6・生田 一美
- 7・渡辺 壮
- 8・石田 雅章
- 9・新沢 久美子
- 10・岸本 剛紀
- 11・尾辻 弥寿雄



「横濱 日ノ出町」 とみたやすよ (日曜撮影専科)

かつては大岡川船運の間屋街であったが戦後の混乱期より「青線地帯」「大岡川スラム」として知られるようになった。現在は環境改善運動で生まれ変わろうとしている。

2022/7

日曜撮影専科撮影会

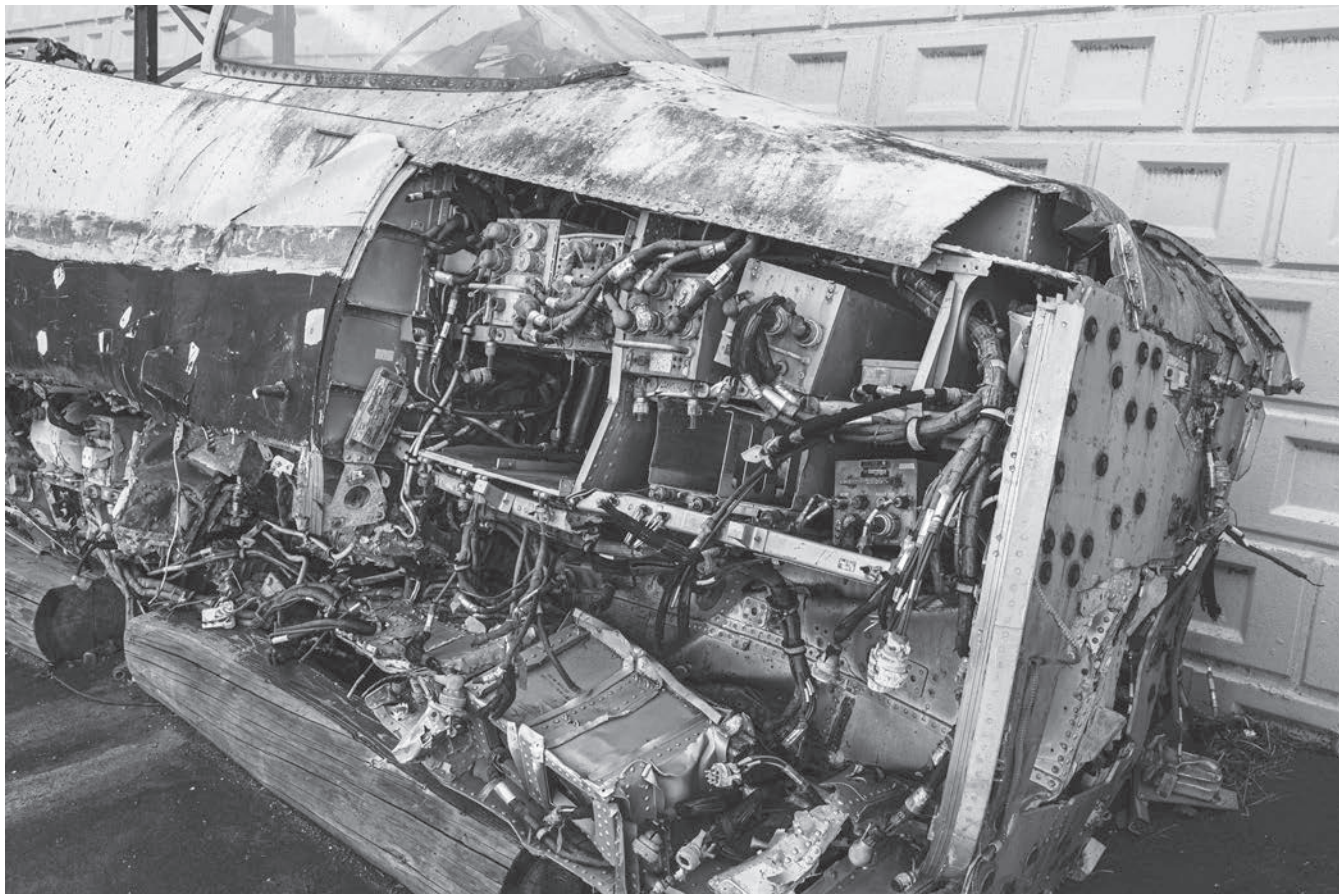


—白昼夢—

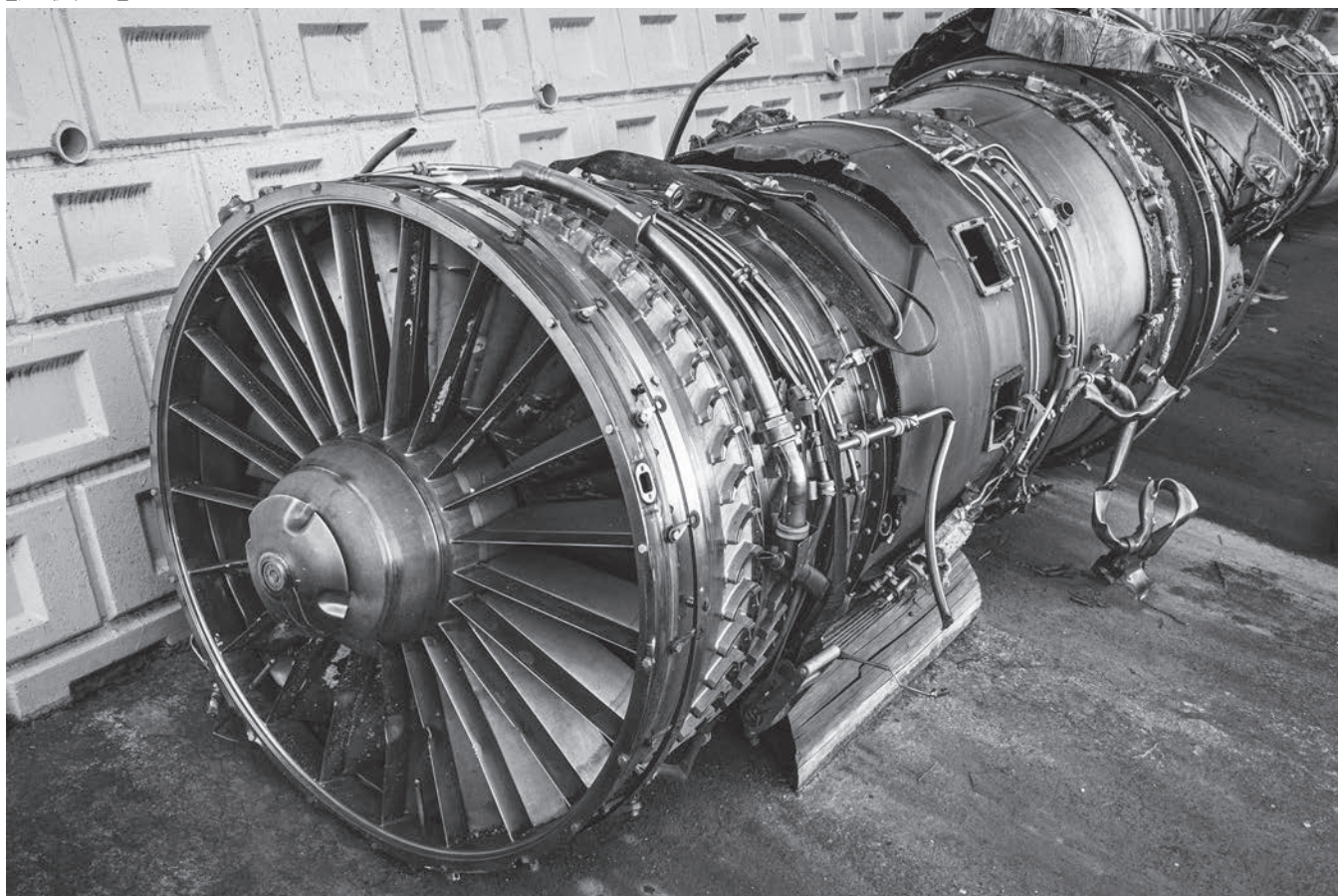
藤田篤男 (オンラインワークショップ)

ロシアの蛮行が起きて以来、水槽に泳ぐエイはステルス戦闘機、自然エネルギーとしての風力発電用の羽はミサイル、津波で被災した重機は被弾の残骸、非現実的な空想といえなくなってしまった。

- 写真1 撮影年月 2022年4月
撮影場所 宮城県 気仙沼市
- 写真2 撮影年月 2022年5月
撮影地 青森県 六ヶ所村
- 写真3 撮影年月 2020年10月
撮影地 福島県 双葉



【危惧 I】



【危惧 II】

佐藤 泰治 (金瀬胖ゼミ)

2022年7月10日は、参議院選挙の投票日だった。重要な選挙だった。しかし、私は、「不気味な静けさ」を感じていた。「各政党、候補者の政策は、きちんと有権者に伝えられているのか」「必要な議論は、されているのか」——私には、「静けさを演出」しているように見えた。こうなると、既得権側、大きな組織が、強い。

このような選挙でも、「国民の信任を得た」ことになり、今後、いくつもの重要な法案が提出されるだろう。その中には、日本の平和、国民の権利が壊される可能性があるものも、含まれている。参院選の投票日、私は、壊れた飛行機、気味悪い鉄の塊を目にし、足を止めた。そして、「不気味な静けさ」の中、シャッターを切ったのである。 撮影地/千葉県市川市



「鎌倉紫陽花観光」 木崎 昭 (日曜撮影専科)

毎年この季節は明月院の紫陽花の盛りで、大勢の人が押し寄せる。今年はコロナが若干収まっていたせいか、平日でも北鎌倉駅を降りてから寺へ向かう道は大賑わいで、ガードマンが2人も掻きだされ交通整理に大汗をかいていた。

撮影地：鎌倉：明月院 2022年6月



「重なる時間」

生田一美 (尾辻ゼミ)

コロナ禍で街なかに撮りに出かけるのが躊躇われた。普段行くことのない相模川の堤にはウォーキングの人、ペットと散歩の人、ランニングする人など、それぞれの時間が流れていた。

神奈川県立谷戸山公園には自然と触れ合う親子の姿。相模台地に広がる麦畑に夕日が射して…

彼の地の平和の訪れんことが思われる。そして今流れる時間に兼ねての時間や想いが重なる。

そんな思いを “それぞれ異なる時間と場所に想いの重なり” を試みてみました。

上、相模川堤のランニングに品川花魁道中の屈託のない女性の笑顔

中、谷戸山公園のザリガニ釣りの親子に墨田区の保育園児の怪獣の絵

下、座間の麦畑に阿波おどりの女の子(女踊りがとっても上手、撮ってもいい?と尋ねるとポーズをとってくれた。きっと素敵な中学生になっている)



古代人への手紙 渡辺 壮 (金瀬ゼミ)

今この時、見ている太陽、水は、古代人も同じものを見ていたの
だろうか。…いつも妄想しています。

人類の文明は、1万年前の時期に農耕が開始され、食料生産によっ
て古代農耕民たちは大きな人口を抱えるようになる。時を築き上げ
てきた人類の進化の歴史が流れている。文明の始まりは、古代人が
7 時を意識したことから始まったのではないだろうか。石器時代の狩

猟から、原始的な稲作、土器など新しい生命の再生である規則正し
い太陽の光の位置を、意識したことからである。

すべての生き物の生命を支える必要な太陽、水、空気は生命の根
源である。生命は、地球誕生から数十億年という大いなる宇宙の時
の流れの中で命が再生循環している。

上 鹿島灘 2021-06 下 渡良瀬遊水地 2021-06



伐採通告樹（外苑）

石田雅章（フォトジャーナリズム専科）

新国立競技場とその周辺の建て替えですでに 1500 本の樹木は伐採された。仕上げに神宮球場周辺を再開発し 1000 本を伐採しようと事業者は目論んだが、反対の声が計画変更を迫っている。風致地区として安らぎを与えているその樹木をじっくりと観察することから始めた。





「首都高速道路6号線」 新沢久美子（尾辻ゼミ）

初めての「堀切菖蒲園」撮影行。首都高速道路と花菖蒲の奇妙な取り合わせにびっくり仰天していると、見知らぬおとうさんに声をかけられました。首都高を突っ切れば、荒川に出て水辺公園の花菖蒲も見られるというのです。足早に歩きだしたおとうさんの背中を必死に追いかけます。巨大な構造物の首都高。積年の汚れや劣化があちらこちらに。突然のできごとに内心ドキドキしながらパチパチ撮影。見知らぬおとうさんは同郷（新潟）だったというおまけつきでした。



「ふもとの街」 岸本剛紀 (入江進ゼミ)

スカイツリーは東京のどこにいてもよく見える。特に墨東エリアであれば細い路地に迷い込んでも心配はない。完成当時スカイツリーのお陰で墨田区も少しは発展するだろう

と誰もが思った。その通りになったところもあるが、昔の風情というか、そのまま変わらない趣きを残しているところも多い。

上 墨田区荒川土手 下 墨田区押上3丁目 2022.7



「浮遊」 尾辻弥寿雄

鳥は飛ぶという。しかしカモメや鳶を見ていると時々飛んでいるのではなく浮いているのである。風や上昇気流に身を任せ、ただただ浮いて下界を眺めている。その姿から、昔々の絵師は鳥瞰図という技法を編み出した。身の回りしか見えない人間の視界を、鳥ように高所からの視界で世の中を見る技法である。この一週間のコロナウイルスの感染者数が世界一になったという。政府の「経済活動が優先です」の言葉の下、病院を求めてただただ右往左往する国民の姿を、鳥観図ではどう描くのだろうか。

撮影 2022.3 隅田川

現研事務局からのお知らせ

2021年10月から始まったオンライン特別講座は、9回を終え、視聴を申し込んでいただいた方にアーカイブとして期間限定配信を行っています。

5月は入江講師のLightroom講座、6月は飯塚明夫講師の「ちいさな『大人』アフリカ・子供たちの日々」7月は金井紀光講師の災害の記憶—未来を予想するために—を配信。全国各地から約30名の視聴者に向けて配信をすることができました。もっと沢山の方に視聴をしていただければとおもいますので、現研生の皆さんが聞いてみたい講師や講義内容を是非事務局までリクエストして下さい。また、アーカイブをご視聴になりたい方は、お問合せ下さい。

皆さんが普段からよく目にするYoutubeに、現研ギャラリーでの展示の様子や、作品のスライドショーなどを公開し、皆さんの作品を紹介していきます。



© 飯塚明夫



© 金井紀光

10月11日開講！英伸三連続講座受講生募集中

コロナ禍により延期になっておりました英伸三連続講座の幕間映画鑑賞プログラムを**9月20日午後6時～**行います。若干お席をご用意できますので、鑑賞ご希望の方は、事務局までお問い合わせ下さい。

鑑賞する映画は「戦艦ポチョムキン」です。

交流誌 photospace は、月に一回の発行を目指しています。

クラスを越えて、現研生が交流する場所でもありますので、積極的にご投稿ください。ここからがスタートです。作品を発表しながら、作品をふかめていくことができればと思います。掲載している作品への感想や提案、こんなことあんなこと、どんなことでもおしらせください。

 **Photograph** 現代

雲南 古屋
Furuya Yu



現研出版局より **G photograph** の発行について

2022年5月に写真展「雲南面影」を開催した金瀬ゼミの古屋行男さんが写真展開催に合わせて現研出版局より写真カタログを発行しました。

講師とページ構成などをしながら、一流の写真集をてがけている東京印書館の印刷で写真集を作ってみませんか。見本は、現研の教室書棚にありますので、ぜひ手に取ってご覧ください。

サイズ 210^{mm}×280^{mm}。全ページモノクロ。ページ数は28P。
定価 1100円（税込）